


保育者が知っておきたい 

子どもの歯と口の病気

— その対応と予防 —

朝田芳信

知っておきたいこと

保護者へのアドバイス

園での対応

予防のポイント

学建書院

指しゃぶりについて

指しゃぶりは何歳まで見守ってよいのか、歯並びや咬み合わせに影響はないのか、止めさせるにはどのようにしたらよいのかなど、お母さんにとっては不安がいっぱいです。

おしゃぶりと同様に、指しゃぶりを続けるほど歯並びや咬み合わせに影響がでるものです。ただし、3歳までの指しゃぶりは生理的なものと捉えるべきで、見守ってもらいたいものです。

3歳を過ぎても指しゃぶりを続けていると、その子どもが5歳になったときに、約半数に開咬がみられたとの調査結果があります。また、開咬が続くことで、上下の前歯のすき間に舌を入れる癖（舌癖）がみられるようになります。

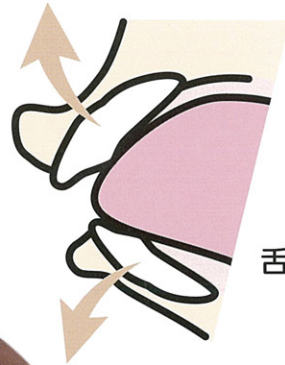
開咬は、初期の段階ではなかなか気づきません。それは、正面からみても歯が咬み合っているように見え、下からのぞきこむようにしないとすき間を確認することができないからです。上下のあごのすき間は、舌癖が加わると、よりひどくなります。すき間が顔の正面から確認できるようになり、垂直的なすき間が目立ちはじめます（写真➡）。そして、舌癖のある子どもは、サ行、タ行、ナ行、ラ行などが舌足らずな発音になることがあります。さらに、口唇が閉じにくくなって、いつも口を開けている癖がつき、口呼吸になりやすくなります。

子どもの様子をチェックする

幼児期後半では、指しゃぶりが急激に減りますが、なかには指しゃぶりを継続している子どもも少なくありません。指しゃぶりをしていて、上下の前歯にすき間が見えはじめたら、舌癖が始まっている証拠です。そのようなときには、保護者に小児歯科を受診するようすすめましょう。



指しゃぶり



舌の突出



8

歯の交換期

「歯が交換する」ことには、大変深い意味があります。

子どもの口の大きさには、乳歯サイズの歯でないと収まりきりません。永久歯が幼児の口の中にあることを想像してみてください。大変なことになりそうですね。

乳歯をそのまま使い続けることが可能であれば、歯の交換という現象は起こらなかったかもしれません。しかし、乳歯の歯の大きさと根の長さや太さでは、年齢とともに発達する咀嚼筋や噛む力に耐えきれないのです。そのため、乳歯にかわり永久歯が生えてきます。

歯の交換のトラブルとしては、「乳歯が抜けなのに永久歯が生えてきてしまった」という相談がもっとも多くあります。

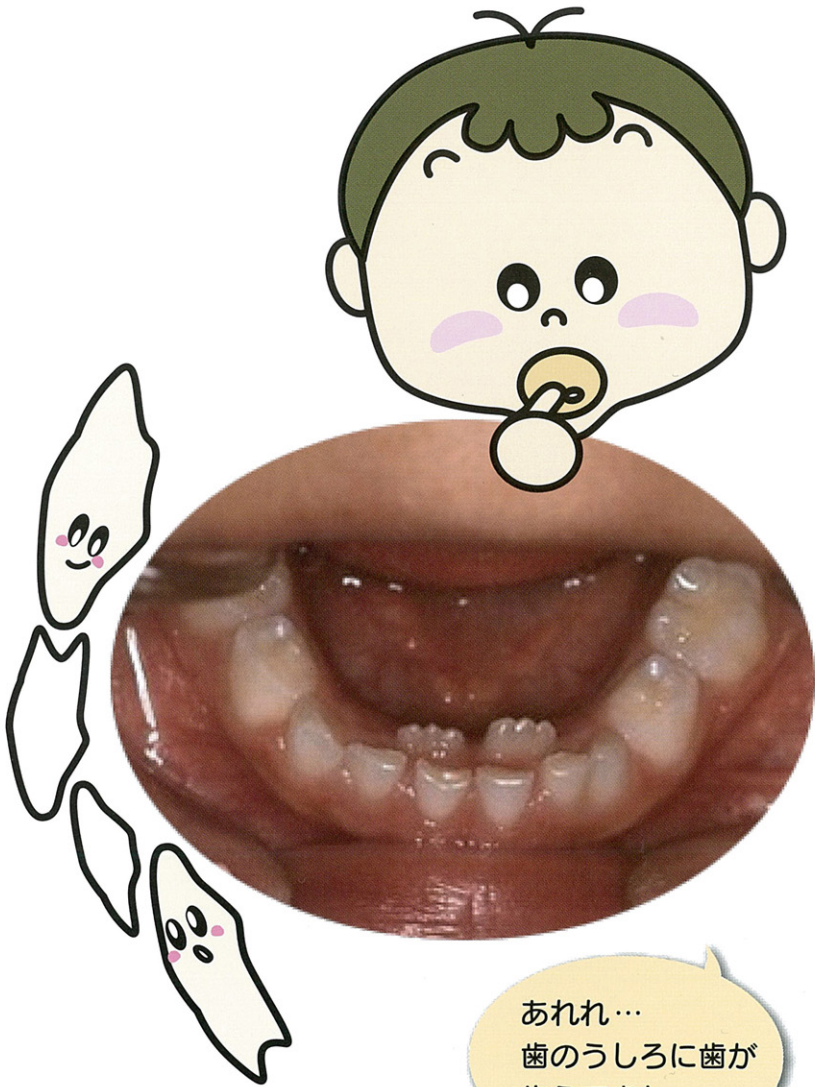
とくに、下の前歯の交換では、永久歯が乳歯の内側（舌側）から生えてくることが多くあります（写真➡）。異常ではありませんが、その状態によって対応の仕方が異なるため、保護者には小児歯科を受診するようすすめましょう。

一方、上の前歯の交換では、永久歯は乳歯の真下から生えてくることが多く、上下の前歯の交換の仕方は大きく違ってきます。

子どもの様子をチェックする

前歯の交換を迎える園児もいますので、園の生活のなかで、子どもたちの様子をチェックし、保護者に対して適切なアドバイスをしてあげましょう。

歯の交換期は、歯の揺れが大きくなるため、盛んに手で乳歯を触るしぐさをしたり、不自然な食べ方や食べるのが遅いなどの変化がみられます。



あれれ…
歯のうしろに歯が
生えてきた

乳歯が抜けてしまった場合の対応

乳歯が抜けてしまった場合、その歯を元の位置にもどす、いわゆる、再植は、予後が悪いという理由で、以前はあまり行われていませんでしたが、再植の技術や材料の進歩により、最近では積極的に行われるようになってきました。

しかしながら、乳歯の再植では、診断や治療に関する明確な基準は示されていません。永久歯再植の条件として、次の2つのことははっきりしていますので、乳歯にも当てはめることができます。

- ① 歯が抜けてから歯を元の位置に戻すまでの時間が、30分以内であれば、90%が予後良好という報告がある。
- ② 抜けた歯の歯根膜（歯を取り巻くクッション）を乾燥させない。

園での対応

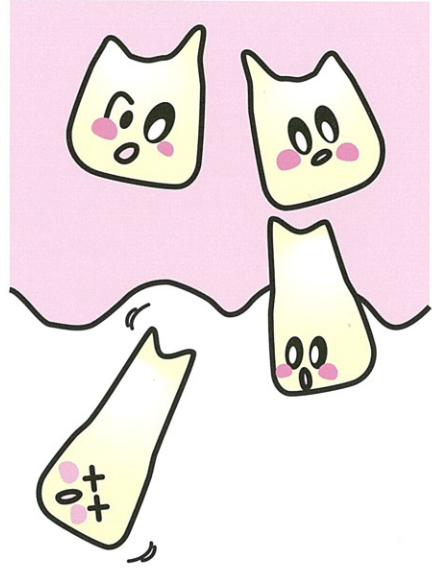
乳歯が脱落した時点で、歯が不潔な状態であれば流水で洗い流します。その際、次のことに注意してください。

- ① 歯根膜を直接手で触らないこと（手には細胞を破壊する酵素がある）。
- ② 洗い流す程度であれば水道水でもよいが、長い時間、水道水に浸けな
ないこと（浸透圧の関係で細胞が膨張し死んでしまう）。

そして、脱落した歯を冷たい牛乳（腐敗を防ぐ意味で冷たいことが重要）や保存液に浸けた状態で、30分以内を目標に歯科医院を受診しましょう（写真→）。

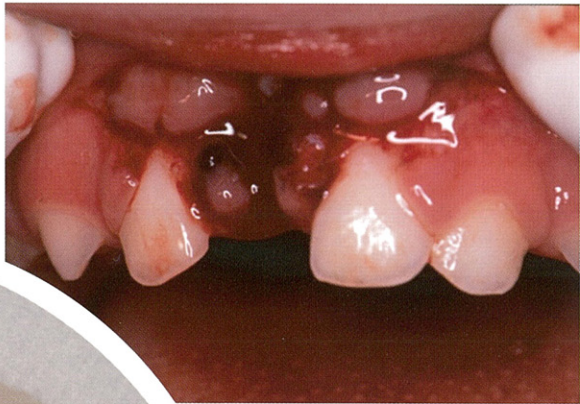
保存液は、細胞用培養液の準備は困難で、冷たい牛乳も常備しているとは限りません。市販の歯の保存液を常備しておくともよいでしょう。

また、脱落した歯をせっかく元の位置に戻しても、指しゃぶりやタオル咬み、舌癖があれば、再植した歯に力が加わることになるため、止めさせるよう指導しなければなりません。



注意!!

根の部分は
触らないこと



1

リガフェーデ病



① 先天性歯



② 褥瘡性潰瘍

- よくみられる年齢 新生児（0歳）
- 原因 先天性歯（出生時に生えている出産歯と、新生児期に生えてくる新生歯をあわせて先天性歯と呼ぶ）の刺激で起こる（写真①）。
- おもな症状 下あごの前歯の刺激によって、舌下部にさまざまな褥瘡性の潰瘍ができるため（写真②）、乳幼児では授乳量の減少や摂食困難がみられることが多い。

対応

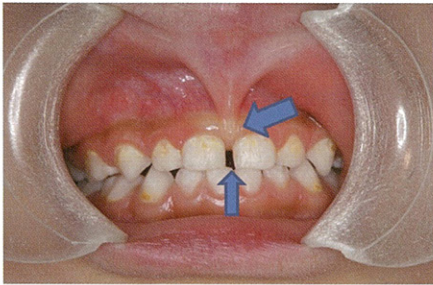
下あごの前歯の刺激を取り除くことが第1選択となるため、歯科医院を受診し、前歯の鋭端を削ってもらうかあるいは研磨をしてもらいましょう。

保護者へのアドバイス

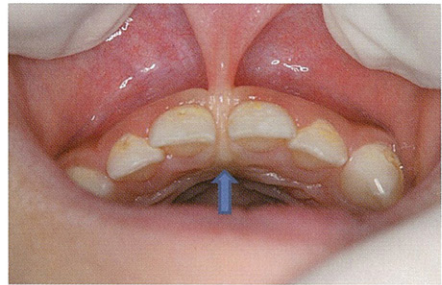
潰瘍部分が陥没したり、広がるようなら、できるだけ早く歯科医院を受診するようすすめましょう。また、舌下部分だけではなく、下唇を巻き込む癖のある乳幼児では、下唇の裏側にも潰瘍ができることがあるため、口の中を丁寧に観察することが大切です。

4

上唇小帯付着位置異常



⑤ 上唇小帯付着異常



⑥ Blanch テスト

- よくみられる年齢 幼児 (3~6 歳)
- 原因 出生時には上唇の小帯は高位にあるが (写真⑤の矢印), 発育に伴いしだいに退縮し, 付着位置が変化しますが, この退縮が正常に行われないことが原因である.
- おもな症状 乳歯列の完成時においても, 上唇の小帯が高位にあり肥厚しているときは, 正中離開 (写真⑤の矢印) がみられる.

対応

口唇を上方にもち上げて引っ張るようにすると, 小帯の付着している部分が白く変色するので, 確認は容易にできます (写真⑥). 多くの場合, 増齢に伴い位置が変化するので, 永久歯の前歯部が交換するまでは経過観察とします.

保護者へのアドバイス

歯磨きを嫌がる原因にもなるため, 小帯が張っているときには, 上唇を人差し指でもち上げ, 小帯をさけるようにして歯磨きをするとよいでしょう.